

第 25 回トピカル切手展 審査基準ガイドライン

公益財団法人日本郵趣協会
審査委員会

はじめに

本ガイドラインでは「トピカル切手展審査基準」での各項目の解説に加え、過去の出品事例を基に架空例を示しました。○は推奨、△は可能ですが作品の制作が事実上難しいか、○よりも推奨度が低いと考えられる事例、×は推奨されない事例です。

0. 「トピカルコレクション」の定義

「トピカル切手展審査基準」では、「トピカルコレクション」について「1つのトピック（作品で取り扱う“もの・こと”。作品のタイトルとなるもの）」に沿って、トピックそのものが描かれている郵便切手類を論理的に分類したコレクションだと定義づけています。

本ガイドラインでは審査の各評価項目の細部に言及していますが、トピックに沿った郵便切手類をトピックに基づく論理的な基準で、できるだけ詳細に分類し、それらをリーフ数の制限の中で多種類構成することが主旨である点を考慮ください。

1. 作品の構成

(1) タイトルリーフ

タイトルリーフは必ず用意し、「タイトル」、「作品概要」、「構成」を明示ください。タイトルリーフが2ページにわたる場合は、構成は2ページ目のみに記し、2ページにまたがらないように配置ください。

① タイトル

「タイトル」は作品のトピックで取り扱う作品の内容を示す文言とし、客観的に明記ください。

	タイトル例	解説
○	貨物鉄道	定義が客観的です。図案で示せる内容です
○	鉄道に関する労働	定義が客観的です。「労働」という言葉は抽象的ですが、「労働者」としての建設員や駅員などを示すことで作品として成立する見込みがあります
×	私が乗った世界の鉄道	他の人からは「私が乗った鉄道」の範囲を客観的に推測できません
×	貨物鉄道と鉄道労働者	定義は客観的ですが1つの作品に2つのトピックがあります。1つに限定する必要があります

×	蒸気機関車アラカルト	「アラカルト」は「自由に選ぶ」という意味ですが、このタイトルですと、出品者個人の展示マテリアルの選択基準が他の人からは不明です
---	------------	---

② 「作品概要」

「作品概要」には、作品の全体の流れを示した文章を4-5行の目安で記載ください。

	作品概要例	詳細
○	この作品は貨物鉄道について輸送品の種類を基に分類したコレクションです。第1章では世界で最初の貨物鉄道として鉱物を輸送するトロッコを示し、第2章では・・・	作品の範囲、分類基準、各章の内容を分かりやすく紹介しています
×	この作品は、貨物鉄道のコレクションです。この作品を作るためには、30年の収集歴を必要とし、ここに展示している以外にも100リーフ分のコレクションがあり・・・	個人的な収集遍歴、展示物の内容以外に言及しており、作品概要とみなすことが難しいです

③ 「構成」

「構成」はプランとも呼ばれ、作品の要素や要素間の構造を示す目的があります。章や節の名称の前に番号を記載ください（下表参照）。また、各ページの上にも章・節番号と名称を記載ください。

これにより、作品全体における各ページの位置づけが分かりやすくなるとともに、鑑賞者がタイトルリーフから各ページをみつけやすくなる効果もあります。

	各章や節の例	詳細
○	4章 高速鉄道 4.1 新幹線 P.65-66 4.2 リニアモーターカー P.67-70	各節で示される内容と、ページが明確です。各ページの上には例えば「4.1 新幹線」と書くといいでしょう。
×	4章 その他 4.1 その他の鉄道 4.2 あとがき	「その他」や「あとがき」といった文言では各節で示される内容が具体的に分かりません

(2) 論理的な分類

動植物の分類学上の分類など学術や図鑑で示された分類を用いる他、出品者がタイトルに沿って考案した分類を設定することも可能です。出品者が分類を考える場合について、「自動車」のトピックを基に過去の出品事例を踏まえながら架空例を示します。

	各章の例（節は省略しています）	詳細
○	1章・風力車 2章・蒸気車 3章・ガソリン車	「動力」という単一の基準で分類
○	1章・タイヤ 2章・エンジン 3章・車体	「自動車の構成要素」という単一の基準で分類
△	1章・ベンツの自動車発明 2章・ガソリン車の開発 3章・道路網の整備	自動車の発展を描いた作品と解釈できますが、その内容を示すための郵便切手類の数が章により極端に差異が生じる恐れがあるため、各章のページ数のバランスを欠く恐れがあります
×	1章・ワゴン 2章・ガソリン車 3章・トラック	1つの作品の中で、「動力（ガソリン車）」と「車の形状（ワゴン、トラック）」の2つの分類基準が混在しています
×	1章・ベンツは自動車を発明した 2章・フォードが量産化を成功させた 3章・頻繁なモデルチェンジにより、自動車販売数が増大した	章・節は主観的表現（左記の例では「頻繁な」）、叙述的表現、ストーリーを想起させる文章表現は避けて下さい。

上表では「章」のみを示していますが、実際は「章」を細分化して「節」を使って分類ください。「節」以上の分類を実施することも可能ですが、章と節が明確に分かるようにしてください。

上表の推奨事例は相対的な性格があるものです。例えば、今後「自動車」をトピックとした作品の水準が向上した際は、より専門化したトピックのもと、より細分化された分類を行ったコレクションがより評価される可能性があります。

また、国名や地名、時代以外の分類基準がないかも検討ください。例えばトピック「日本の城」の場合、「1章・東北地方」、「2章・関東地方」等の地域別や「1. 鎌倉時代」、「2. 室町時代」等の建築時期別で構成するよりは、建築方法などで分類の方が論理的な分類と評価される可能性があります。

以下は本展の過去出品作品では、あまり見受けられない例も含め、諸外国のトピカル郵趣作品で推奨されている代表的な作品の構成方法です。

① 分類学的構成

動植物などを主題とした作品で用いられることが多い方法です。自然科学の進展や目的に伴って様々な分類法が併存する場合もあるため、よって立つ分類基準やその理由を明記すると、展示意図が分かりやすくなります（例、本作品は、〇〇の理由により××の分類法を採用している）。

② 構造的構成

例えば「ノーベル賞」という主題で、「歴史」、「授賞の過程」、「受賞者」、「賞に関する論争」…と主題について様々な角度から展開する方法です。テーマティック郵趣でも同様の展開が可能です。テーマティック郵趣では節のストーリーとしての前後関係が問われるのに対し、トピカル郵趣では前後関係は問わない代わりに、章・節の名称はストーリーを想起させないものとする必要があります（「(2) 論理的な分類」の例示を参照）。また、「受賞者」の章では、例えば分野別に「物理学」、「化学」、「生理学・医学」、「文学」、「平和」、「経済学」など分類的な節の構成も可能です。作品自体のタイトルを「ノーベル賞受賞者」とし、章名をこれら分野別にしても良いでしょう。

③ イベントによる構成

例えば「アジア競技大会」という主題で、「水泳」、「アーチェリー」、「陸上競技」…と展開する方法です。これらの前後関係は問われません。イベントを主題として、そのイベントを構成する要素で章立てする方法です。

④ 形態による構成

例えば「橋」という主題で、「吊り橋」、「ビーム橋」、「トラス橋」…と展開する方法です。特定の具象的な主題に対して、その形態やスタイルに基づき分類する方法です。

分類学的構成や形態による構成は採用する分類法自体は評価対象ではありません。ただし、評価対象となる作品全体の構成を容易に理解できるよう平易に表現ください。

(3) 収集の網羅性

トピックに沿った郵便切手類が、どの程度まで揃っているか（多種類展示されているか）を評価する審査項目です。ただし、本項目では展示される「トピックと図案間の関連性」と「郵便切手類としての重要性」が考慮されます。

① トピックと図案の関連性

日本発行の「見返り美人 5 円」の切手を例に取ります。下表の通りトピックが図案に分かりやすく描かれているものが「関連性が高い」と評価されます。

	トピックと図案の関係	架空例	詳細
○	トピックが図案のメインとして描かれている	トピック「浮世絵」での展示	切手の図案は、浮世絵「見返り美人図」を基にしています
△	トピックが図案の一部として描かれている	トピック「花」での展示	図案に描かれた女性の着物の柄に花が描かれています。花を主題として描かれた切手ではないですが展示可能です
×	トピックが図案に描かれていない	トピック「菱川師宣」での展示	浮世絵「見返り美人」作者の菱川師宣の肖像が切手の図案として描かれていません。
		トピック「切手趣味」での展示	「切手趣味週間」の記念切手ですが、切手収集を想像させる絵が描かれていません。仮に「日本の切手趣味週刊切手」という題材であれば、JAPEX（（公財）日本郵趣協会主催・全国切手展）伝統郵趣クラス等での出品が考えられます。これらは「サブジェクト収集」と称されることもあり、トピカル収集の一分野とする場合もありますが、本展では対象外としています。 なお、これらの主題に応じて発行される郵便切手類でも、対象の具体的な図案が示されている場合は、本展の対象となります（例えば「マラリア撲滅キャンペーン」の主題で発行された郵便切手類において、マラリア原虫やその原虫をもった蚊が図案化されているものなど）。

② 郵便切手類としての重要性

展示されている郵便切手類に対して下の2つの観点から総合的に判断して評価します。

- ・ 郵便切手類の発行年代
(トピックの中で初期に発行されたアイテムを優先して評価します)
- ・ 郵便切手類の発行国の規模
(国家規模の大きさ、世界における郵便制度上のその国の影響力の大きさ、トピックに

おける発行国の重要性)

例えば、「紋章」など郵便切手類が膨大に存在するトピックでは、特に上記基準を意識してコレクション（出品者が保有する郵便切手類）から当該の郵便切手類を選別し、展示することを推奨します。なお、審査上、トピックに応じた郵便切手類の発行年代や発行国の偏りを考慮します。

2. 知識

(1) トピックに関する知識

トピックに関する知識について、作品の記載内容から評価します。日本国内では得難い知識や、専門的な知識と認められる場合に加対象となります。トピックに関する知識が不足している場合（リーフ上に記述が無い場合を含みます）や、知識に誤りがある場合は減対象となります。なお、郵便切手類が主体であり、記述はそれを引き立てる程度に簡潔であることを推奨します。

トピックに関する知識の記述は、リーフの上部または下部に記述する各リーフ全体に対するものと、各郵便切手類に対する記述の 2 つに分けられます。それぞれの記述は以下を参考にして下さい。

各リーフ全体に対する記述（リード文、トピックセンテンス）

- ・各リーフ全体の内容を要約した文章です。
- ・2～3行程度で簡潔に記述ください。
- ・記述は必須ではありません。記述しない場合は、章・節の記述に加えて、分かりやすさの観点から必要に応じ、見出しをつけても良いでしょう（章・節の記述については、1. 作品の構成 (1) タイトルリーフ ③「構成」を参照）。

各郵便切手類に対する記述

- ・個々の郵便切手類のそばに書く図案の説明です。
- ・原則、単語（例、「ツキノワグマ」、「D51 型蒸気機関車」、「平等院鳳凰堂」など）を中心に図案が示す内容のみを簡潔に記述ください。
- ・ただし、同じものを描写した図案の郵便切手類を複数展示する場合（例、オオクワガタを描いた別種の切手を複数枚展示）は、同一リーフに集積して展示ください。この場合、個々の郵趣品に対して同じ説明を書かず、これらの集積に対して 1 か所に書いても良いでしょう。

(2) 郵趣知識

① 多様性

「多様性」とは、各リーフの中でさまざまな種類の郵便切手類が展示されていることを示します。「種類」の観点には、郵便切手類の多様性、切手類が発行された時代の多様性、発行国の多様性の 3 つの観点があります。ただし、本項目はトピックによっては実現困難な場合があるため、実現可能性を考慮して評価します。

- ・郵便切手類の種類が多様性

「トピカル切手展審査基準」の冒頭「適切な郵便切手類」に示されたマテリアルの範囲で、なるべく多様な郵便切手類を展示することを推奨します。例えばトピカル郵趣作品でよく用いられ、入手しやすい郵便切手以外の郵便切手類としては、官製はがき、航空書簡、メータースタンプがあります。

また、例えば同一切手の未使用とカバーの両者があり、両者間の稀少性の差異が小さい場合は、カバー1通でスペースを占有するよりも未使用切手の単片を示した方が他のマテリアルを示せるため、「1. 作品の構成 (3) 収集の網羅性」の点で有効と考えられます。多様性と網羅性、両者のバランスを考慮して展示アイテムの選択を検討ください。

- ・切手類が発行された時代の多様性

一例として下記の 3 区分で、郵便切手類の発行年代の多様性を考えると多様性が広がると考えられます。

- a) 19 世紀以前
- b) 第二次世界大戦以前 (1900 年～1945 年)
- c) 第二次世界大戦後 (1946 年以降)

ただし、a)や b)の多くの場合は、相対的に他の 2 区分と比較して数(種類、現存数)が少なく収集が困難な場合が多いため、その点も加味して評価します。

- ・発行国の多様性

なるべく多くの発行国の切手類を展示することが発行国の多様性につながります。多くのトピックで、発行国には偏りがありますので、その点も考慮して評価します。(例、「ピラミッド」のトピックの場合、エジプト以外の発行国は限られる)。この場合、例えば次のいずれかまたは、両方の対策が必要になると考えられます。

- a) エジプト以外の発行国の切手類を探す(ただし、エジプト以外の特定の国の切手類に偏らないようにすることも必要です)
- b) トピックの範囲を「権力者の墳墓」など、より多くの発行国がありそうなトピックに広げる

② 適切な郵便切手類

トピックに関する知識

トピックに関する知識の記載内容が、以下に挙げた「適切な郵便切手類」の図案として描かれている場合は、その書き込みは郵趣知識の評価対象となります。逆に書き込みの内容が、そのアイテムの図案と関連性がない場合や、書き込みの対象アイテムが「適切な郵便切手類」に該当しない場合（例、私製絵はがき）は評価対象になりません（「1. 作品の構成（3）収集の網羅性」も参照）。

マテリアルの郵趣的知識

一見して適切な郵便切手類としての判別が困難なアイテムや、適切な郵便切手類の内、いずれに該当するか判別が一見して困難なアイテムについては、特に簡潔に説明を記載ください。

適切な郵便切手類

- ・郵便切手…郵便切手、小型シート、切手帳
 - ※耳紙（タブ）や切手帳の表紙を含みます
 - ※耳紙は切手とつながった状態で展示ください
 - ※フレーム切手や外国での同種の切手の展示は避けてください
 - ※切手帳の表紙やページ（間紙）に印刷された絵、写真、広告も対象
- ・消印…図案が描かれている日付印、記念印、証示印
 - ※証示印：郵政が郵便物に何らかの取り扱いをしたことを示す印（Ex.検閲印）
 - ※消印の図案を用いてトピックに関する知識を示すことが可能
- ・メータースタンプ
 - ※料額印面に描かれた図案や広告が対象
- ・カバー…切手を貼付して運ばれたカバー（封書やはがきなどの郵便物）
 - ※切手の図案か、消印の図案を用いてトピックに関する知識を示すことが可能
- ・ステーションナリー…郵便事業者発行の郵便はがき、郵便書簡、航空書簡、国際返信切手券
 - ※料額印面の図案、表面・裏面を問わず印刷された絵や写真、広告のはがきの広告などに描かれた図案が対象
- ・郵便切手の発行準備段階の資料…郵便切手類の採用原画、不採用原画、スケッチ
- ・発行準備のための試刷…ダイプルーフ、プレートブルーフ、エッセイ
- ・見本切手

作品の構成上、代わりとなる「適切な郵便切手類」がない場合のみ使用が許容されるアイテム

- ・マキシマムカード

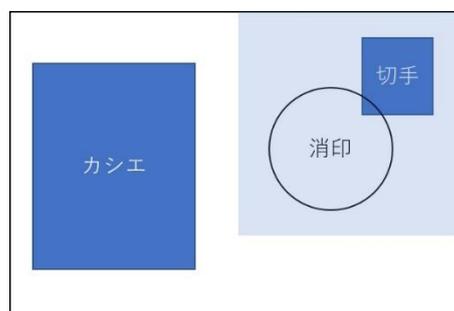
※郵便切手または消印の図案を用いてトピックに関する知識を示すことが可能

※郵便切手の図案に示されているトピックが小さい場合や、図案が原図の一部しか示していない場合（例. 絵画の一部を郵便切手として図案化した場合など）に拡大図の代わりに用いることが多い

- ・印紙…印紙、印紙の郵便使用例

最後に、過去の出品事例から「適切な郵便切手類」に該当しない例を挙げます。

	トピックと図案の関係	詳細
×	切手発行案内パンフレット	切手発行案内パンフレットは「適切な郵便切手類」には該当しません
×	官製はがきの裏面に差出人の企業が印刷した絵、または個人が描いた絵	郵政による印刷でなく、企業や個人による印刷部分を用いて、トピックに関する知識を示すことはできません
△	カシエが描かれた記念カバー（初日カバーなど）の封筒	記念カバーに貼り付けられた切手と消印は、適切な郵便切手類ですが、記念カバーのカシエの図案を用いてトピックに関する知識を示すことはできません。切手や記念印の部分を展示に用いることはできますが、できればリーフの裏面からマテリアルを固定し、切手や記念印の部分（下図の場合、薄い水色部分）だけを、リーフをくりぬいて示してください。



これらの他、郵便切手類の製造面分類（版、色調、紙質、目打などによる切手の製造面の分類）の展示は必須ではありませんが、展示した際は郵趣知識を表記ください。ただし、これらを示す際は「1. 作品の構成（2）論理的な分類」や「1. 作品の構成（3）収集の網

羅性」に留意し、当該切手における郵趣的重要性が高い郵趣品を選別して展示し、その重要性の高さが理解できる説明を記載する必要があります。

そして、マテリアルの郵趣的説明は「1. 作品の構成（2）論理的な分類」、「1. 作品の構成（3）収集の網羅性」を阻害しないように簡潔に記述ください。

3. 状態と稀少性

（1）状態

おのおのの郵便切手類の標準的な状態と比べた、相対的な保存状態を評価します。まずは、シミや破れがないことを意識すると良いでしょう。切手発行国もしくは年代によって現実的に入手可能な切手の状態は変わりますので、この点を踏まえて評価します。

（2）稀少性

現存数については、郵趣雑誌や専門書などで発表された数か、出品者自身で調査した数をページ（リーフ）に書くと、高い評価につながりやすいです。鑑定書を得た郵便切手は、展示品の右下に(e)と書いてページの裏側に鑑定書を貼り付けてください。

4. 展示物の美観

トピカル切手展審査基準の通りです。郵便切手類の図案や色彩を正確に判別できるようにリーフは白色・クリーム色など白色系とし、他の色のリーフは避けるようにしてください。使用済切手（カバーやステーションナリーを除きます。また、未使用切手やカバーが現存しない切手などの例外を除きます）の使用よりも未使用切手の展示を推奨します。